

# 投資家がクリーンテックに関して知っておくべきこと

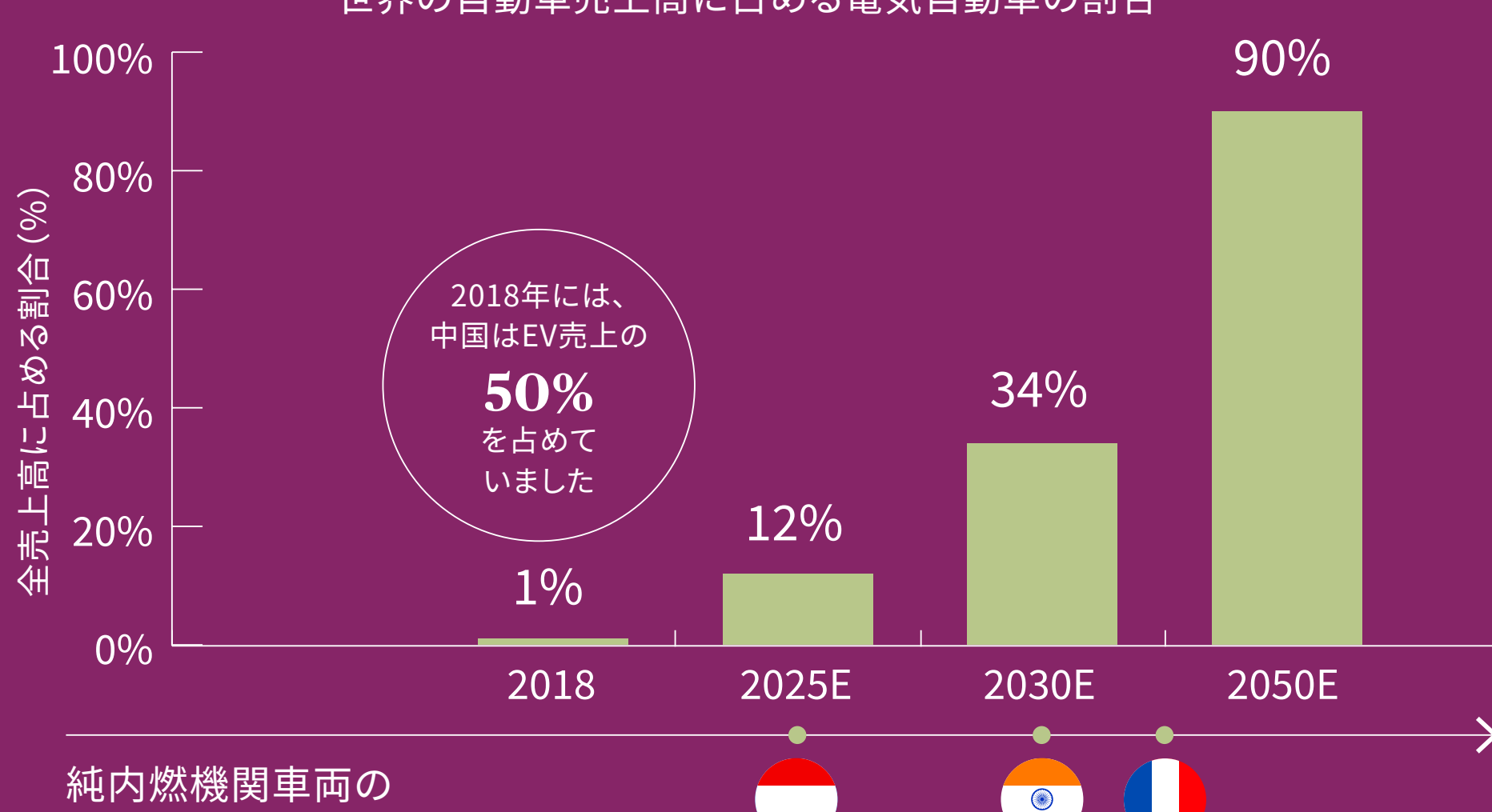
気候変動の影響が地球に大きな被害を与える中で、政府、企業、消費者はそれぞれの活動や行動の環境への影響を見直し、新たな解決策を模索しています。

気候変動に関連した課題を解決できる製品や技術を持った企業は、今後数十年にわたり成長する機会を有しています。

クリーンテック戦略では、以下の4つの分野に注目しています。

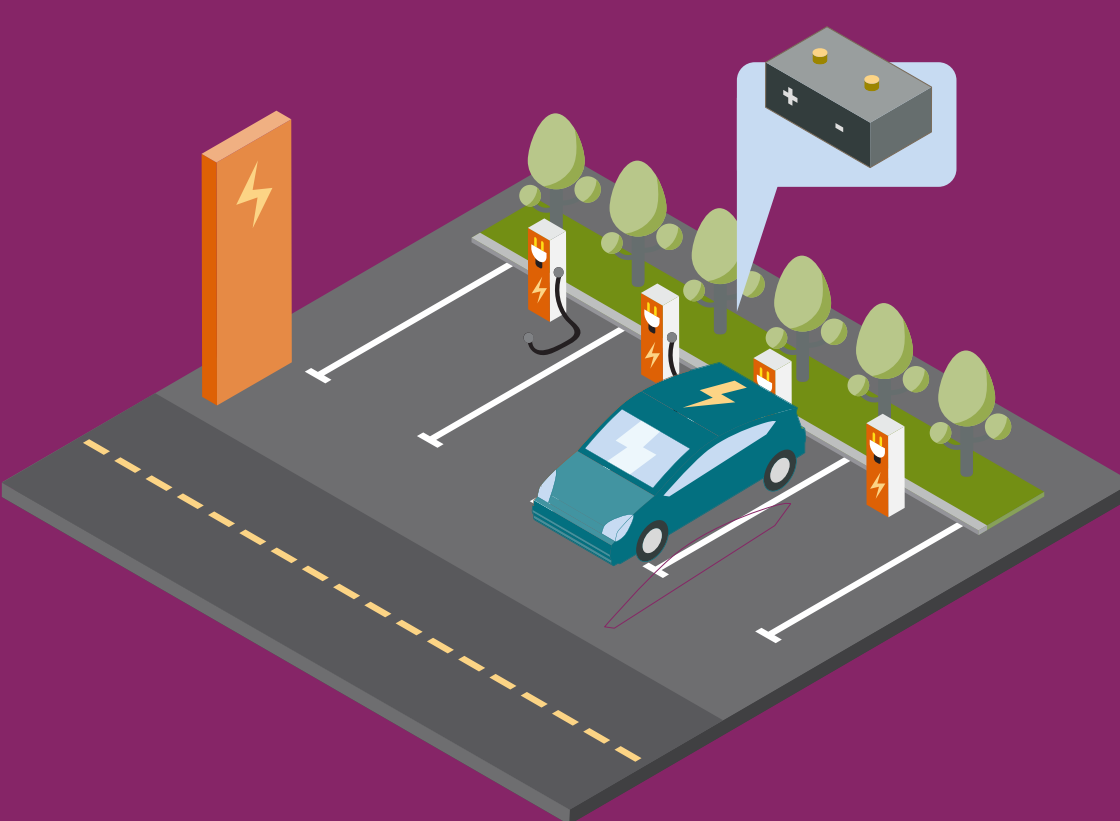
## 1 低炭素輸送

電気自動車 (EV) はもはや、かつてのようなニッチ市場ではなくなりました。強力な政府支援、バッテリー製造コストの下落、消費者行動の急速な変化が EV 需要を加速しています。



100万

世界で設置された公共 EV 充電ステーション数、この内約3分の1が2020年に完成<sup>2</sup>



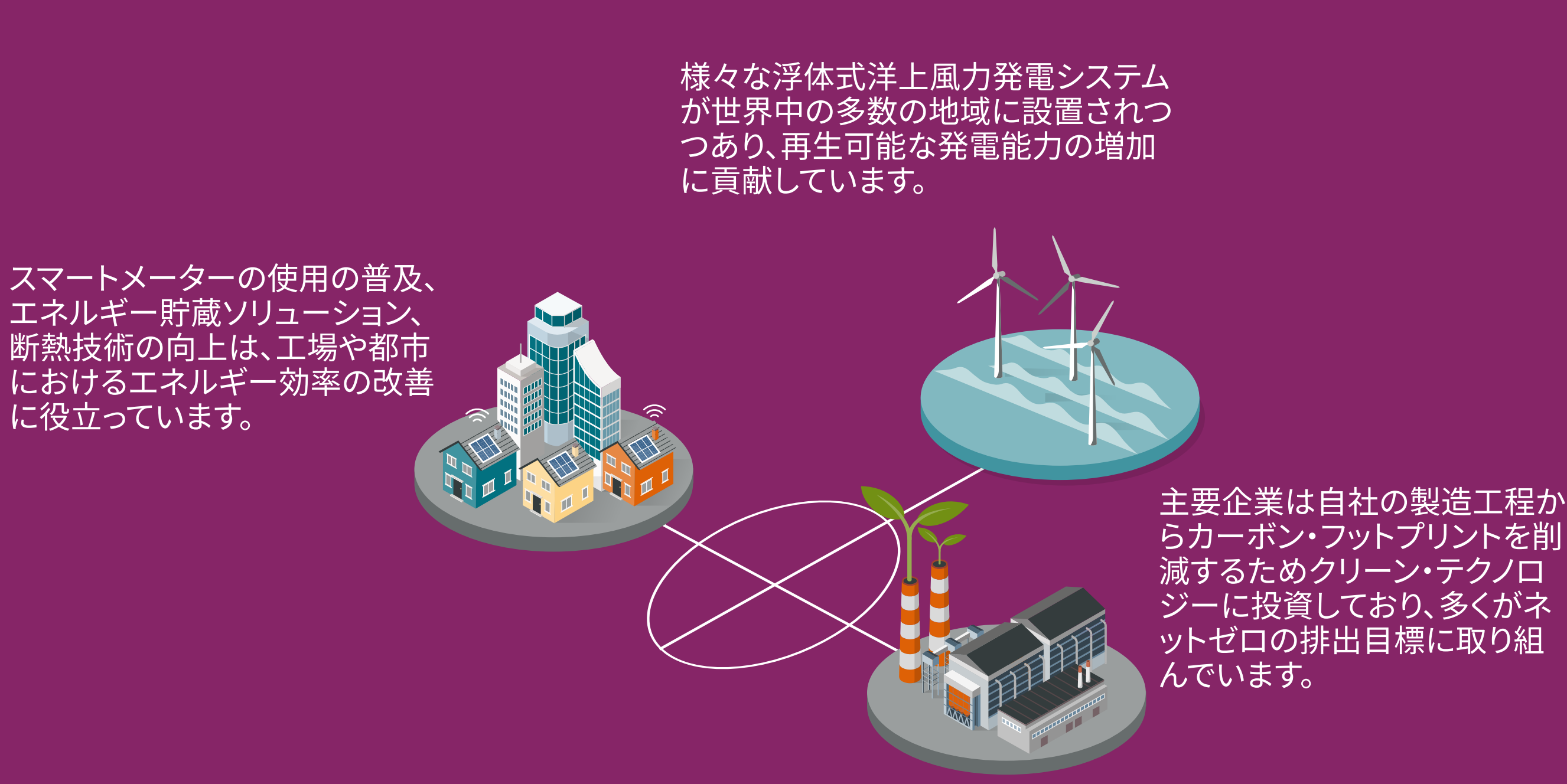
過去10年間でリチウムイオン電池の製造コストが著しく下落。当社ではこれが2018～2025年の間に、さらに

50% 下がると予想<sup>3</sup>

## 2 スマートエネルギー

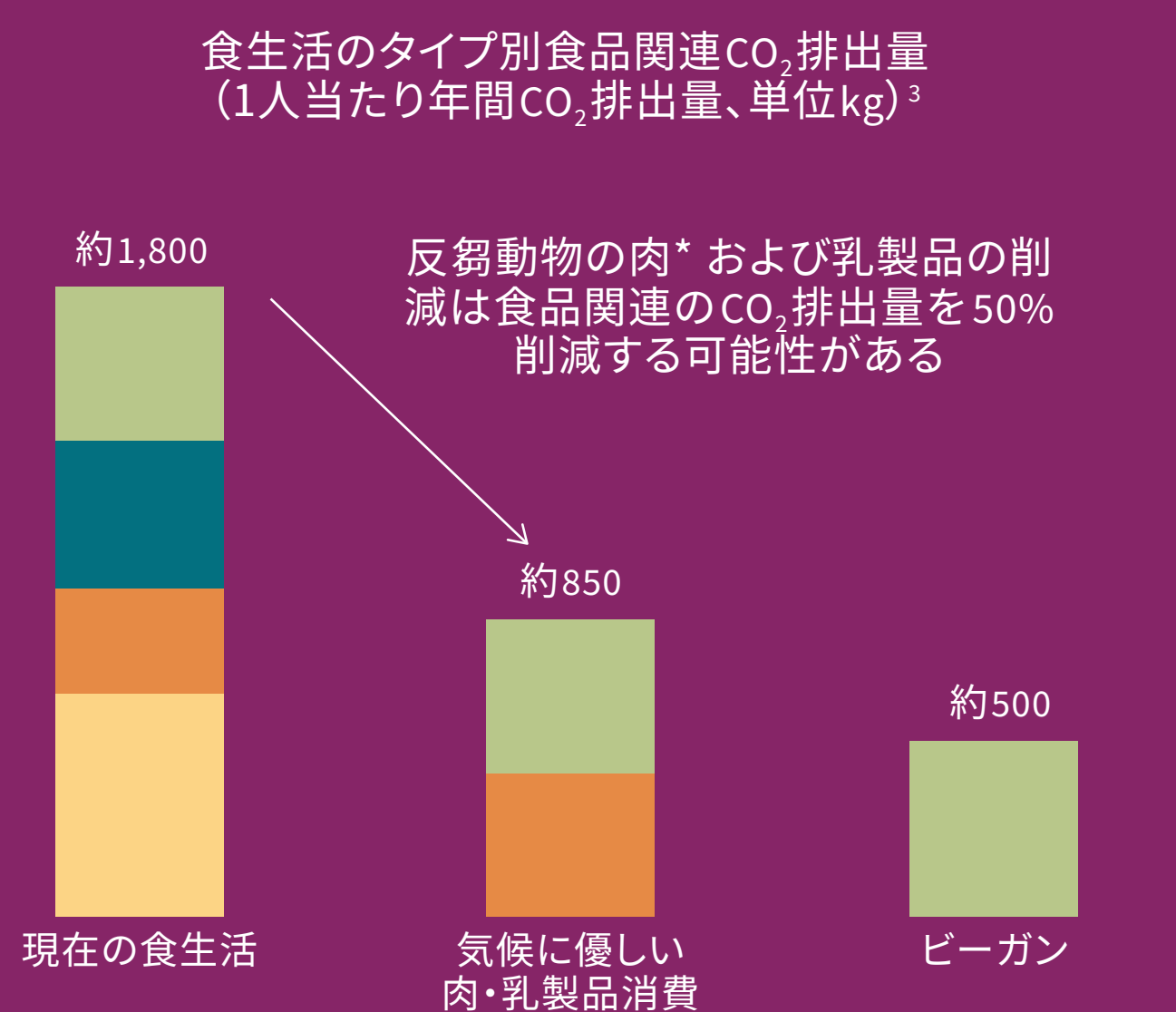
多くの再生可能エネルギーの発電コストが化石燃料より低下しており、その需要が拡大しています。企業は政府による政策支援、消費者行動の変化に対応するため、サプライチェーンを改善し、より持続可能な形で電力提供を構築できるようになっています。

さらに「スマートグリッド (次世代送電網)」により、企業や消費者は電力量をコントロール出来るようになります。スマートグリッドに含まれる一連の技術は、電力ネットワークを革命的に変える可能性があります。



## 3 食料・農業

畜産農業は農地のおよそ80%を使用<sup>4</sup>する一方、世界の温室効果ガス排出量のおよそ15%を生成しています<sup>5</sup>。アグリテック (農業技術)<sup>6</sup> ソリューションや培養肉、および植物性代替肉といった取り組みが、持続可能な土地利用を可能にし、農場から食卓までの食品廃棄物を削減し、食料および農業由来のCO<sub>2</sub>排出を制限するのに役立つ可能性があります。

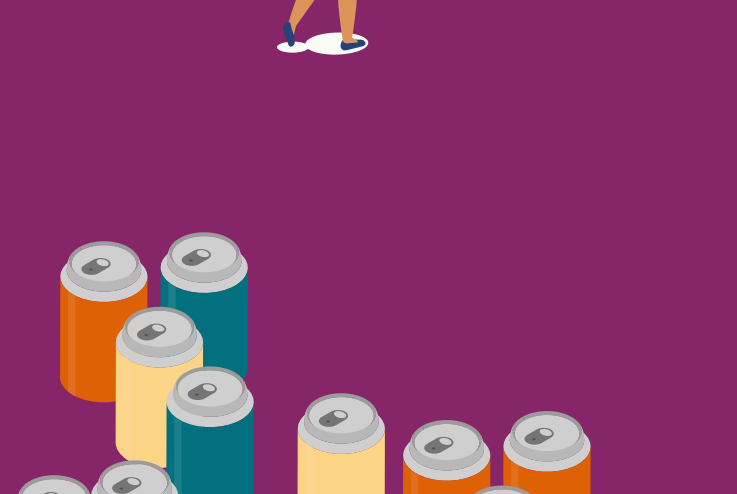
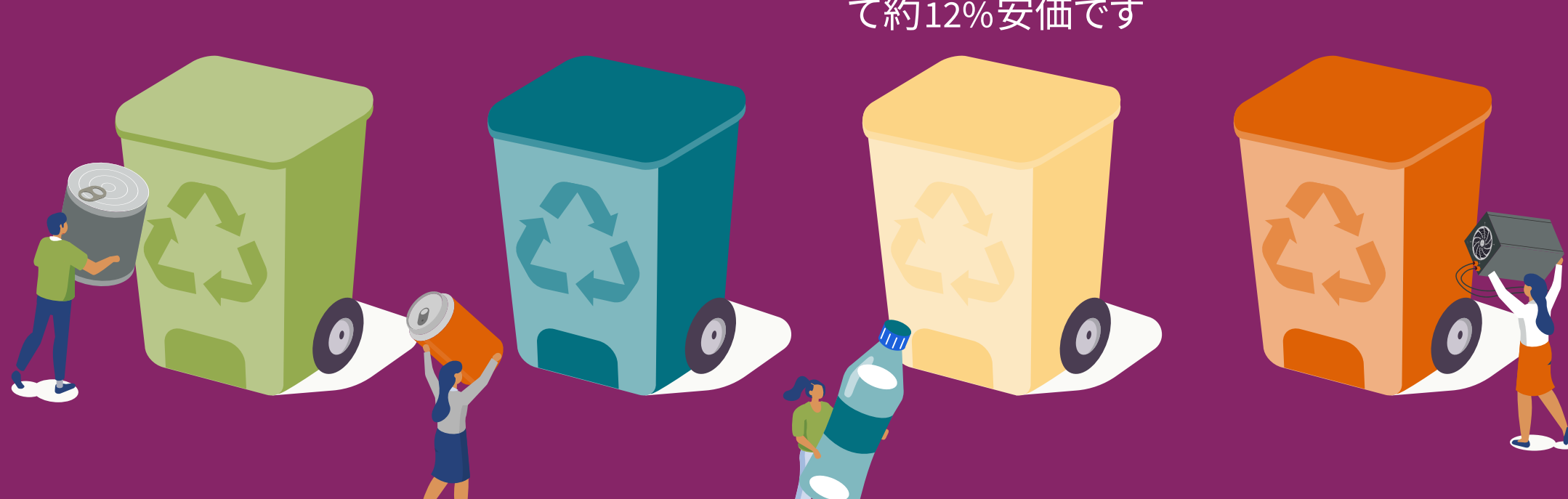


\*反芻動物肉は牛、羊、山羊、豚を含みます。

## 4 効率的な資源利用

環境へのダメージを軽減する企業は、長期的な成長ポテンシャルの恩恵を享受できると当社は考えます。これらの企業は再生利用や再利用の慣行を促進する分野、および水質改善の分野にも取り組んでいます。効率的な資源利用をすることで、以下のような効果をあげられます。

- エネルギーコストの低下**  
再生アルミニウムは新品アルミニウムの製造に比べてエネルギー効率が高い約95%
- 排出量の削減**  
アルミニウムでサイクル終盤の再生率を10%上昇させると、温室効果ガスの排出量を15%削減できます
- 最終製品が安価に**  
段ボール箱を再生してできたボール紙 (クラフトライナー (未使用のボール紙) に比べて約12%安価です)
- ゴミ埋立地利用の減少**  
潜在的な危険物質の蓄積によるリスクを減少させます<sup>7</sup>



3,200億個

に上る飲料用アルミ缶が毎年世界で販売されており、このうち北米と欧州が最大の割合を占めています<sup>5</sup>

## 今後の見通し

- 世界の主な脱炭素化および気候目標<sup>8</sup>を達成するには、再生可能エネルギー源への年間投資が今後30年間に **3~4倍** 増大する必要があると予想
- 電気自動車が2030年までに世界の自動車売上高のおよそ **1/3** を占めると予想<sup>1</sup>
- 植物ベースの肉および培養肉を含む食品イノベーションは2030年までに **7,000億ドル** の市場となると予想<sup>9</sup>



「地球上の人間文明が持続不可能であることは今や現実となっています。このような認識が、政府、企業、消費者の間で広く着実に高まっており、クリーンテック戦略全般での投資機会を創出しています。」

アマンダ・オトゥール  
アクサ・インベストメント・マネージャーズ  
クリーンテック戦略ポートフォリオ・マネージャー

出所:  
1 バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ、グローバルリサーチ予測、2018年4月  
2 Electric Vehicle Outlook 2020、ブルームバーグ NEF、2020年11月  
3 Emission Impossible? Global climate change primer、バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ、ブルームバーグ、2020年  
4 「How much of the world's land would we need in order to feed the global population with the average diet of a given country?」、アワード・データ、2017年10月  
5 バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ、2020年  
6 アグリテック (農業技術) は農業の効率および産物の向上を目的とした、技術および技術革新の利用を指します。  
7 Closing the loop on global recycling、Citi、2020年2月  
8 国際再生可能エネルギー機関、2020年11月  
9 UBSは植物ベースの肉の売上が年間25%強のペースで上昇し、2030年までに850億ドルに達する可能性があるとして予測しています、ビジネス・インサイダー、2019年7月19日

クリーンテクノロジーへの投資が加速しており、より多くの企業が新たなソリューションを開発したり、変化に対応しています。

こちらをクリックして、「クリーンテック」に関する当社ウェブサイトをご覧ください。

アクサIMについて  
アクサ・インベストメント・マネージャーズ (アクサIM) は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と見られるものを追求しています。2020年12月末時点で約8,580億ユーロの運用資産残高を有しています。  
アクサIMは、クリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、5,550億ユーロにおよぶESG (環境、社会、ガバナンス) 統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業にESG原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらすこと、お客様に真に価値のある投資ソリューションをご提供することです。  
アクサIMは20カ国27拠点において2,440名以上の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサIMは、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

投資リスク及び費用について  
当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行います。当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。  
また、当社の投資運用業務に係る報酬額および他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略 (方針) 等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はお客様の負担となります。

【ご留意事項】  
当資料は、金融商品取引法で定義されている適格機関投資家を対象としております。  
当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズ (アクサIM) の情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。  
当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。  
当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。  
当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようお願いいたします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長 (金商) 第16号  
加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会